



故宮博物院 孔子を真似っこ



沖縄 シュノーケリング

My Life Situation

アルバイト：カフェ
趣味：ライブに行くこと、旅行

こんにちは。生物資源産業学部生物資源産業学科 応用生命コース2年の山口舞夏です。徳島県生まれ、徳島に住みついて今年で20年です。父は大阪出身なので自称大阪×徳島のハーフです。私は、特に部活やサークルに所属していません。そんな私の大学生活の楽しみ方を紹介します。

私が思う大学生の醍醐味は、自由な時間がたくさんあることだと思います。私は、平日の時間がある時はカフェでアルバイトをして長期休みのために働いて働いて働きます。私は学生のうちにアルバイトをして良かったと思っています。アルバイト先では、自分と年の違う人と関わって、色々な話をして自分の視野が広がったと感じます。以前は、人

前で話すのがあまり得意ではなかった私ですが、たくさんのお客さんとコミュニケーションをとるうちに接客業が楽しいと思うようになりまし。また、仕事の効率を考えて動いたりお客様への気遣いであったり、ここで学んだことは将来就職したときにも役立つことばかりだと思います。時間のある大学生のうちにアルバイトをしておくことをオススメします。

長期休みには、県外に旅行に行きます。旅行は、行った先と徳島の両方のいいところが発見できて好きです。鎌倉・江の島、広島・岡山、京都、神戸・大阪、東京、沖縄、これまでもたくさん、のところが旅行しました。大学を卒業するまでに行きたくて今年夏の場所に行きたいです。今年

は、ちょっと羽を伸ばして台湾に行きました。小籠包も餃子もおいしかった。道が分からなかったり、言葉が分からなかったりすることもありますが、旅行先ではいつも現地の人の優しさに、親切に助けられています。こんな風に人の温かさに気づくことができるのも、旅行のいいところだと思います。徳島県外に住んでいる友達と旅行に行くときは、飛行機やバス、電車に一人で乗って旅行先で集合！ってこともよくあって、最近一人でできることが増えたと感じます。昔は「一人で行くのはコンビニがギリやな」って言いふらしてた人とは我ながら思えません。成長しました。旅行のおかげで。

時間があれば、自分の趣味を追求することもできます。私は服が好きなので古着屋さんを巡ったり、今年の夏はカバンを自分で作ってみたいと思いました。いつかは自分で自分の着たい服を作りたいと考えています。将来のことはまだはつきりとは決めていませんが、いつか自分の好きなことで起業できればなあと考えています。そのために学生のうちに、好きなことを好きなだけして究めていきたいです。



江ノ島



横浜の赤レンガ倉庫



九份 千と千尋の神隠しのモデルになった街



広島 厳島神社

徳大生 大活躍！

今やソーラーカーは、工学系の高専や大学で手がけてないところはないのでは、というほどポピュラーです。

毎年、鈴鹿サーキットで開催されるレースは、ソーラーカーにける各校のプロジェクトチームの目標になっています。もちろん徳島大学も昨年の「ソーラーカーレース鈴鹿2017」に参加しました。車名は「徳風」。これが初めての参加でした。

「ソーラーカーレース鈴鹿」では、決められた時間内でサーキットを何周できるかを競います。レースで勝つために、ほとんどの参加チームはモーターなどの主力部品に既製品を搭載していますが、「徳風」の目指すものは違います。それは一から全てを手作りするというもの。コントローラの電子回路やプログラムを一から作っています。これらはモーターを制御するためのものです。また、ボディも材料の選定から製作までを自分たち

走れ『徳風』！ 夢を乗せてどこまでもオリジナルにこだわる

徳島大学ソーラーカープロジェクトリーダー
理工学部 理工学科 2年
三宅 遼汰 (みやけりょうた)



「昨年度の車体で特にこだわったのはモーターです。正確に言うと、自動車の中の発電機にあたるオルタネータをモーターの代わりに使っています。コントローラを自作するために低電圧、低回転数のモーターを探していたのですが見つからなかったためオルタネータを搭載しました。また馬力を出すためにタイヤ一つ一つにオルタネータを付けて四駆としました」と、三宅さん。

「徳島大学ソーラーカープロジェクトは、幼い頃に地元の大学でソーラーカーを見た前リーダーの強い憧れによって、2015年4月に発足しました。ソーラーカーの全てを自分たちで手作りしよう、との気持ちを私たちが受け継いでいます」

初めての製作作業には様々な困難がありました。専門知識や経験の少ない彼らにとって、思い通り、予定通りにいかないことの連続でした。ですが試行錯誤しながら一つ一つ問題をクリアしていきまし。

手作りといっても学生には大きな経費がかかります。一部は大学から出ますが、その他はクラウドファンディング等の利用により目標額を達成し集めることができました。

「大変ありがたいことでしたが、期待に応えなければならぬというプレッシャーも生まれましたね」

いよいよ「鈴鹿2017」本番。しかしレース出場のための車検において車体構造上の強度不足などの指摘を受け、徹夜で改良しましたが締め切りに間に合わず、出走



を断念するという結果になりました。「自分たちの力不足を痛感しました。でも諦めません。この悔しさをバネに、支援してくださる皆さんの期待に応えられるように頑張ります」

本年開催予定の「ソーラーカーレース鈴鹿2018 DREAMクラス」へ、まず今年は5時間完走を目指します。常に自作にこだわりつつ、安全な車体で長距離を完走できるように、チーム一丸となつて取り組んでいます。